歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

井戸平左衛門正明は、世に「いも代官」と呼ばれた江戸時代の名代官です。享保十六年（一七三一）、六〇歳のとき石見（いわみ）国大森の代官に任命され、翌十七年、備中（びっちゅう）国笠岡代官を兼務することになりました。そのころ西日本一帯は、イナゴの大発生によって大飢饉（だいききん）となっていました。平左衛門は事態が一刻を争うと判断して、幕府の命令を待たずに独断で代官所の蔵を開き、困っている人にお米を配ったといわれています。また、被害の大きな村の年貢を減免したり、やせ地でもとれる食物としてサツマイモに目をつけて、飢饉をしのぎました。これらの優れた施策によって、井戸代官の支配地からは、ひとりの餓死者も出さなかったと伝えられています。享保十八年（一七三三）四月に笠岡へと移り、五月二六日に病気のため亡くなりました。平左衛門の顕彰（けんしょう）碑（ひ）は、各地に数百基も立てられており、彼が本当に多くの人々から慕われていたことが分かります。お墓は笠岡の威徳寺（いとくじ）にあり、毎年十月に井戸公をしのぶ「代官茶会」が催されています。また、威徳寺の横にある井戸公園は、桜の名所としても知られています。

代官　井戸平左衛門（いど へいざえもん）の墓

笠岡市指定史跡

竹喬美術館の光彩 53

笠　島

小野竹喬　作

昭和51（1976）年頃

32.4×44.6cm

「『奥の細道』を絵にしてみようと考えたのは戦前からのことで、それを煮つめて『奥の細道』の句だけを対象に描こうと思ったのは三、四年前です。芭蕉は生きることの感動を文学でつづりましたが、それに共鳴して、私は風景画という造形で表現したいという意欲がわいてきたのです」

（竹喬のことば）

この絵のもとにある芭蕉の句は「笠島はいづこさつきのぬかり道」である。ぬかるむ道よりも、緑のあざやかさこそが通り過ぎた雨を思わせる。竹喬は当時87歳、芭蕉が焦がれた笠島を自らの絵に生かそうとする意欲をもって、仙台近辺で取材した。

展覧会と行事のご案内

特別展

綺麗に咲く花々

泉美術館名品展

梅原龍三郎作〈薔薇図〉をはじめとする、美しい花々を楽しみ下さい。

ギャラリートーク

5月12日㈯

5月26日㈯

いずれも

13:30～14:30

（入館料のみ必要）

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html

今月の表紙

4月10日、陶山小学校の正門前で、野点の会が行われました。陶山幼稚園の園児たちも参加し、満開の桜の下、地域のみなさんと一緒に抹茶とお菓子をいただきました。

暖かな春の陽気の中、初めての抹茶はどんな味だったかな？少し苦い大人の味をぐっと飲みこみ、甘～いお菓子を食べて、ちょっぴり背伸びしてみました。

係から

三月まで岡山光量子科学研究所へ出向していました。

四月から笠岡市役所にもどり企画政策課へ配属になりました。出向していた三年の間に市役所の組織・機構だけでなく、仕事のやり方そのものが全く変わっていました。戸惑うことばかりで、慌ただしい毎日を送っています。

これからいろいろな催しものを取材しますのでよろしくお願いします。

（良）

土屋武之　笠原良一

発行日／平成19年5月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／㈱国輝堂　☎67-5111

笠岡市ホームページ：http://www.city.kasaoka.okayama.jp
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp

PRINTED WITH SOY INK ※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100％の再生紙を使用しています